NO-MAコレクション Part 4

色、いろ、イロ

① 本展ポスター

ＮＯ-ＭＡでは、美術館の担う大切な役割である作品の収集、保管、展示に努めてきました。開館から20年以上が経ち、収蔵作家は35名、収蔵作品は3万点を超えます。本展では、ＮＯ-ＭＡコレクション Part 4と銘打ち、新たに収蔵した橋脇健一さん、平田猛さんを含む、6名の作家の作品を2期にわたって展示します。

展覧会のテーマは「色」です。
光の三原色がつくりだす色は無数にあり、目の前に広がる光景をどのような色彩でとらえるかは、人それぞれ違います。作品として表現する方法も千差万別です。ときには、黒一色で描かれた作品から、豊かな色彩を感じることもあります。

本展では、色のもつ力に焦点を当てて、作品の豊かな表現を紹介します。
色彩豊かな5名の作家を紹介する第Ⅰ期。第Ⅱ期では、単色で表現された作品を紹介します。4名の作家は、どちらの会期でも展示し、それぞれの作品の魅力に迫ります。
作者が表現しようとした世界を、お楽しみください。

また、同時開催イベントとして、「つくろう！ あそぼう！ ものづくランド」をオープンします。おとなもこどもも楽しめる、参加費無料のワークショップコーナーです。

展覧会概要

会　　場　ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ（滋賀県近江八幡市永原町上16）
会　　期　第Ⅰ期　2025年5月24日(土)～7月21日(月・祝)
　　第Ⅱ期　2025年7月26日（土）～9月28日（日）
開催時間　11：00～17：00
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌平日）
観 覧 料　一般300円（250円）　高大生250円（200円）
　　※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金
主　　催　ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ
　　社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
後　　援　滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協　　力　近江八幡観光物産協会、しみんふくし滋賀、マエダクリーニング仲屋店

【問い合わせ　/　掲載用写真貸出・取材】
社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部（ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ）
TEL：0748-46-8100　FAX：0748-46-8228　MAIL：akazawa-yoshiro@glow.or.jp　担当：赤澤

本展のみどころ

■ 色をテーマに、前期、後期と２つの視点で楽しめます

作者の多様な表現を、色をテーマに楽しめる展覧会です。
第Ⅰ期では、色彩豊かな作品を展示します。作者が表現しようとしたものはさまざまですが、どのような絵具を手にし、色をまぜたり、重ねたりすることで、どのような世界が生まれたのか。
淡く、明るく、幸福感に満ちた世界が広がることがあれば、荒れ狂うような力強い色づかいや、どこかアンバランスな不思議な表現に出会うこともあります。
第Ⅱ期では、色をテーマにしながら、単色で表現された作品を紹介します。黒一色で描かれた世界に、温かさを感じたり、冷たさを感じたり、作品が踊り出しそうな動きを感じることもあります。
岩崎司さん、木本博俊さん、ドゥイ・プトロさん、三橋精樹さんの4作家は第Ⅰ期、第Ⅱ期どちらも展示するので、両展示をご鑑賞いただくことで、表現の多様さを感じていただけます。

■ ＮＯ-ＭＡの収蔵作品にふれて、ＮＯ-ＭＡの魅力にふれる

2024 年に開館 20 周年を迎えたＮＯ-ＭＡでは、「ボーダレス・アート」という言葉に思いを込めて、障害のある人たちによる造形表現や現代アートなど、様々な表現を分け隔てなく紹介してきました。収蔵作品においても、ボーダを設けることなく、障害のあるなしに関わらず、魅力ある3万点を超える作品を収蔵しています。
収蔵作品を紹介する「ＮＯ-ＭＡコレクション」は本展で4回目となりますが、2期に分けて4か月という長期間にわたり展示するのは初めての試みです。古民家を改装したＮＯ-ＭＡの空間で、じっくりと鑑賞いただくことで、ＮＯ-ＭＡが 20 年にわたり紡いできたものを感じることができます。近江八幡市の重要伝統的建造物群保存地区に佇む、築 100 年に迫る町屋を舞台にアートにふれる体験をお楽しみください。

■ 「ものづくランド」は3回目の開催　夏休みはＮＯ-ＭＡでものづくりに熱中しよう！

「ものづくランド」は 2023 年に第１回を開催して以来、ＮＯ-ＭＡ近隣の子どもたちに大人気のイベントです。子どもだけでなく、大人ももちろん参加ＯＫ。久々にクレヨンを手にして絵を描いたり、人形を作ったり、ものづくりに夢中になる姿が見られます。土日になると、朝早くから「ものづくランド」をめがけて来館してくれる親子がたくさんいましたが、今回は夏休み期間も開催するので、よりたくさんの人にものづくりの楽しさを感じてもらえる機会になるはずです。
ワークショップは、ＮＯ-ＭＡで過去に実施して好評だったものを復活させたり、発展させてみんなで楽しめるものを考えています。大人気だった「ピーナッツマンをつくろう！」も第Ⅰ期に復活します。ワークショップを楽しみながら、作者の気持ちに触れたり、新しい発見が生まれることを目的にしています。

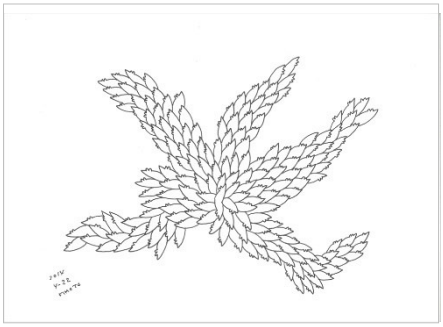
■出展者

② 無題 制作年不詳

岩崎 司 Iwasaki Tsukasa

1928-2006年 岩手県

岩崎さんは、55 歳の時に病気で入院しました。63 歳になってからベッドの上で絵をかきはじめ、78 歳で亡くなるまでかきつづけました。たくさんかいたので、ベッドのまわりは絵でいっぱいになりました。ただ、病院で手に入る紙は 薄いので、しばらくすると絵が丸まってしまいます。そのため、広告のチラシを巻いて作った筒状のものを、絵の裏やまわりにはりつけました。若い時から短歌をつくることが好きだったので、絵に言葉を組み合わせたり、これまでに読んだ宗教や文学の本から思いついたイメージをかくこともありました。



③ タイトル不詳 2014

木本 博俊 Kimoto Hirotoshi

1949年生まれ 愛知県在住

木本さんは、高校を卒業してから病気になり、病院で、ずっと絵をかいてきました。30 年以上、病院でくらす中で、1000 枚を超える絵をかきました。まっすぐな線や、まがった線、丸や三角形をつなげたり、ふやしながらかかれた絵は、ふしぎな生き物のようにもみえます。絵は、便せんに、ペンや色鉛筆、ボールペンなどを使ってかかれています。絵にはひとつひとつに番号がつけられ、いくつかの束にまとめて、ふくろに入れて大切に保管されていました。

④ タイトル不詳 2015

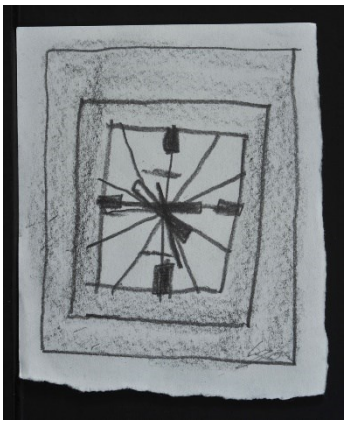
ドゥイ・プトロ Dwi Putro

1963年生まれ インドネシア ジョグジャカルタ在住

ドゥイさんは、インドネシアで、妹の家に一緒に住み、絵をかいています。庭に大きな壁をたて、絵をかくための布をはり、絵具を使ってかきます。紙にクレヨン、ペン、鉛筆などでかくこともあります。はじめは 家の壁に「ワヤン」という、インドネシアの影絵の人形劇にでてくる人形をかきました。それはドゥイさんが小さいころに、家の近くでひらかれたワヤンをみることができなかったことがきっかけだったそうです。それから、ワヤンの絵のほかにも、動物や植物などの絵をかきつづけ、今では数えきれないほどの量になっています。

橋脇 健一 Hashiwaki Kenichi ※第Ⅱ期のみ

1952 年生まれ 兵庫県在住

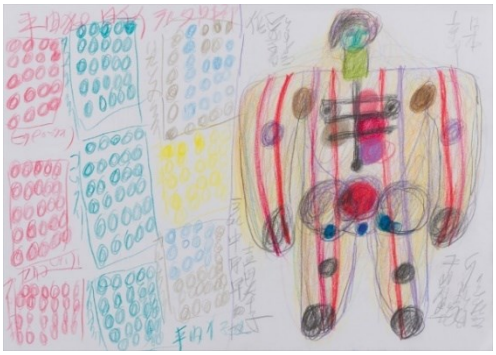


⑤ 無題 1978 年頃～2001 年頃

橋脇さんは、いつもきまった時間にきまった場所で、正座をして、手でちぎった四角い紙に、鉛筆で絵をかきました。絵は、月に一、二度、施設から帰宅する土曜と日曜にかきました。時計をみながら、1 分に 1 枚のペースでかきました。それを 20 年以上も続けたので、たくさんの絵があります。お父さんが仕事をしていた自宅の机のちかくに座ってかきました。そこから見える、目のまえの壁に貼られた板、窓、壁にかかっている時計などをかきました。大好きだったお父さんが生きていたときは、お父さんが長年自宅で開いていたソロバン教室で、お父さんのそばで絵をかいていたそうです。

平田 猛 Hirata Takeshi ※第Ⅰ期のみ

1936-2021 年 京都府



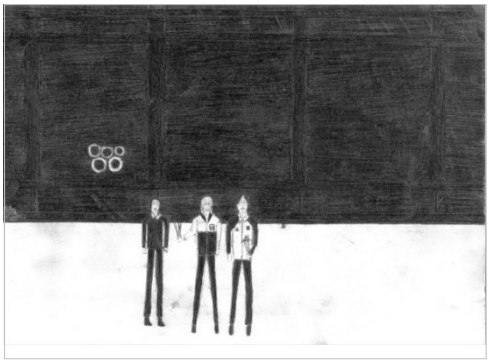
⑥ 無題 2017

画像提供：art space co-jin
「アートと福祉のアーカイブ・京都」

平田さんは、病院に長くいましたが、30 歳をすぎてから、はじめて絵をかいたそうです。今残されている絵は、亡くなるまでの約5年のあいだにかかれたものです。その短いあいだでも、100 冊以上のスケッチブックがあります。動物や食べ物、薬の錠剤、乗り物、病室の窓から見た外の景色などの絵をかきました。80 歳をすぎ、手術のために入院してからは、人間のからだをたくさんかくようになりました。絵には言葉が添えられています。なかには、テレビは「テレピ」、豚を「プタ」と書くなど、書き方が間違っているようにみえるところもあります。でも、他の絵でも同じ書き方をしているので、わざとそう書いたのかもしれません。

三橋 精樹 Mitsuhashi Seiki

1943-2020 年 滋賀県



⑦ 無題 2006

三橋さんは、鉛筆やクレヨンを使って絵をかきました。鉛筆でかいた絵は、かたちをかいてからぬりつぶすので、何度も強くぬりかさねた部分は、ねずみ色に光ってみえます。三橋さんは、何をかいたのかを、絵の裏や絵の中に、カタカナ書きの文章でくわしく説明しています。その文章を読むと、三橋さんがこれまでにみた景色やテレビの映像など、昔のことを思いだして、自分の記憶をもとにかいたことがわかります。今確認できているだけでも、数百枚もの絵があります。

■関連イベント

同時開催**「つくろう！ あそぼう！ ものづくランド」** **参加費 無料**

楽しいワークショップが参加費無料で体験できるコーナー「つくろう！あそぼう！ものづくランド」を今年も開催します。
おとなもこどもも楽しめるワークショップコーナーです。（実施内容は当プレスリリースの P.2 も併せてご参照ください）

第Ⅰ期 2025年5月24日（土）～7月21日（月・祝）
ビーナッツマンをつくろう！／ＮＯ-ＭＡがあるまちを立体で再現しよう！
第Ⅱ期 7月26日（土）～9月28日（日）
キラキラ、ピカピカで「好き！」をつくろう！／みんなでつくる、つながる折り紙

■障害などを理由に、ＮＯ-ＭＡに行くか迷っている方へ

「さわって楽しめるものはある?」「これが苦手なんだけど大丈夫?」「静かにしなくてもいい?」など、あなたやあなたの周りの方が気になっていることや、必要なサポートを教えてください。合理的配慮の観点から、できる限りの情報提供やスタッフによる対応を行います。なお、本展では、見えにくい方や聞こえにくい方、字を読むのが苦手な方に向けての「情報保障」や、さわって楽しむ展示物を準備しています。

詳しくは QR コードから
ご確認ください

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー　法人企画局地域共生部
（ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ）広報宛
FAX：0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。
ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ＦＡＸまたはメールにてお申し込みください。
なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。
(1)　キャプションは、作家名、作品名、制作年を表記ください。
(2)　作品のトリミング、文字載せはお控えください。
(3)　本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名：『　　』

種別：　TV　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　携帯媒体　その他　　発売・放送予定日：

御社名：　　ご担当者名：

Ｅメールアドレス：　　@

（〒　　－　　）
ご住所：

お電話番号：　　FAX：

□	①NO-MAコレクション Part 4「色、いろ、イロ」ポスター画像		
□	②岩崎 司	無題	制作年不詳
□	③木本 博俊	タイトル不詳	2014 年
□	④ドゥイ・プトロ	タイトル不詳	2015 年
□	⑤橋脇 健一	無題	1978 年頃～2001 年頃
□	⑥平田 猛 ※掲載には、画像提供：art space co-jin 「アートと福祉のアーカイブ・京都」のクレジットが必要です。	無題	2017 年
□	⑦三橋 精樹	無題	2006 年

【問い合わせ　/　掲載用写真貸出・取材】
社会福祉法人グロー 法人企画局地域共生部（ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ）
TEL：0748-46-8100　FAX：0748-46-8228　MAIL：akazawa-yoshiro@glow.or.jp　担当：赤澤